



環境リスクPress

2016年12月発行 / VOL.10

アスベスト関連ニュース 2016年11月19日

アスベスト問題発覚1カ月 補修に少なくとも8億円

札幌市の市有施設で、アスベスト(石綿)を含む煙突用断熱材が剥がれ落ちた問題の発覚から、20日で1カ月となる。市の緊急点検の結果、アスベストが確認されたのは計43施設に達した。煙突の補修などの費用は本年度分で3億円前後となり、将来必要な分を含めると少なくとも8億円に上る見込み。補修終了まで施設のボイラーを止めるため、市民サービスに影響が出ているほか、市民に広がった不安にどう対応するかなど、課題は山積みだ。

問題の43施設で市はアスベストの除去、薬液による封じ込め、煙突の新設などを行い、アスベストの飛散を防ぐ。小中5校と北白石地区センター(白石区)は年内に工事を終えるが、ほかの多くの施設は来年1月中旬までかかる。補修費用は現時点で2億7千万～3億1千万円となる見込みだ。

今回アスベストが見つかった小中13校以外でも、アスベストを含む可能性がある煙突が学校だけでも市内に約150本あるといい、市教委は将来、追加の補修費用が約5億円かかるとみる。

※一部抜粋(参照:北海道新聞)

土壤汚染対策の基礎知識

重金属汚染対策技術「不溶化処理」

重金属等の汚染土壌対策として主流とされるのが掘削除去です。しかし、自然由来への対応やその潜在する規模の大きさから「不溶化処理」という方法が過去よりたびたび注目されています。

不溶化処理とは…

汚染土壌に、安全で無害な薬剤を混合することにより汚染物質の性状を変え有害な物質が水に溶け出さないようにする方法です。原位置工法、埋め戻し工法などの工法があります。ただし、汚染物質は含有されます。

【不溶化材例】

マジカルフィックス (住友大阪セメント株式会社)



重金属イオンの難溶化による化学的吸着と細孔への物理的吸着のW効果により汚染土壌中重金属類の長期安定化を実現した重金属汚染対策材。

■pH: 9~10未満 (弱アルカリ性)

参照: 重金属・不溶化.com
<http://heavymetals-fuyouka.com/>

最新トピックス

補助金をうまく活用しませんか？ -アスベスト補助金について-

民間建築物に対するアスベスト調査等に関して国は補助制度を創設しており、補助金制度がある地方公共団体では、地方公共団体経由で補助金が支給されます。この事業はアスベストがあるかないかの調査に向向ところから補助金の対象としている地方公共団体もありますので、最寄の地方公共団体の担当部局に相談してください。また、この補助制度は平成29年度末まで継続が決まっています。

- 【概要】
- ①補助事業の内容: 建築物の吹付け材について行うアスベスト含有の有無に係わる調査
 - ②対象建築物: 吹付けアスベスト等が施工されている恐れのある建築物1)
 - ③対象とする費用内容: 対象建築物の所有者等が行う、吹付け材のアスベスト含有調査に要する費用
 - ④補助額: 限度額は原則として25万円/棟(民間事業者等が実施する場合は地方公共団体を經由)

調査を依頼する前にまずは地方公共団体の担当部局に相談し、補助金交付の申請、交付決定後、調査者と契約を締結してください。

